

## 大日岳訴訟 国が控訴

# 原告落胆、驚きの声

## 「断念」求めた会見後

「まさか、控訴するなんて」「残念」。大日岳雪崩落事故で、4月26日に富山地裁判決で約1億6700万円の支払いを命じられた国が2日、控訴。死亡した学生の父親ら、原告は深い落胆と驚きの声を上げた。この日、原告3人が東京都内で記者会見し、国が控訴しないよう訴えたばかりだった。

原告はすでに4月28日、ついでに死亡した大学生内、文部科学省に対し、控訴断念を求める要請文を提出し、父、博さん(57)(横浜市保土

も大変な思いをしてきた。国は判決を真摯に受け止めるべきだと強調した。また、同じく亡くなった溝上国秀さん(同20歳)の母、洋子さん(51)も「国は、二人の青年が亡くなったという事実を重く受け止めて欲しい」と訴えていた。会見後、国の控訴を知っ

た博さんは、読売新聞の取材に対し、「残念だ。私たちは、国がこの事故を反省した上で、登山研修所に研修を続けてほしいと願っていたのに、これで、再開のめどが立たなくなるのではないか。今後は弁護士と相談して対応していきたい」と話した。

また、溝上国秀さんの父、不二男さん(60)も取材に対し、「驚いた。まさか国が控訴するとは思わなかった。私たちが何年も調査し、19万もの署名を集めたことを、どう思っているのか。国は、これからも同じ過ちを繰り返すのではないかと、憤りを込めて話した。